

平成27年2月

川本由紀美 学位論文審査要旨

主 査 清 水 英 治
副主査 山 本 一 博
同 井 上 幸 次

主論文

Associations of inflammatory cytokines with choroidal neovascularization in highly myopic eyes

(強度近視眼の脈絡膜血管新生と炎症性サイトカインの関連)

(著者：川本（山本）由紀美、宮崎大、佐々木慎一、三宅賢一郎、金田周三、池田欣史、馬場高志、山崎厚志、野口由美子、井上幸次)

平成27年 RETINA, THE JOURNAL OF RETINAL AND VITREOUS DISEASES 掲載予定

参考論文

1. Efficacy of herpes virus helicase-primase inhibitor, ASP2151, for treating herpes simplex keratitis in mouse model

(単純ヘルペスウイルス角膜炎のマウスモデルにおけるヘルペスウイルスヘリカーゼ - プライマーゼ阻害剤ASP2151の有効性)

(著者：佐々木慎一、宮崎大、春木智子、川本（山本）由紀美、神鳥美智子、矢倉慶子、鈴木宏、井上幸次)

平成25年 British Journal of Ophthalmology 97巻 498頁～503頁

審査結果の要旨

本研究は、近視性脈絡膜血管新生（mCNV）が炎症と関係していると仮定し、脈絡膜血管新生（CNV）関連炎症性サイトカインとmCNVや近視性黄斑症、および治療に対する反応との関連について検討したものである。その結果、Vascular endothelial growth factor (VEGF) とIL-8がmCNV眼で上昇し、またそれらがmCNVと強い関連をもつことや、MCP-1がベバシズマブ硝子体内注射（IVB）治療抵抗性および黄斑症の進行と関連していることが判明した。本論文の内容は、mCNVとVEGFの関連についてのこれまでの報告を裏づけ、さらにはIL-8やMCP-1がmCNVに対する新たな治療ターゲットあるいはマーカーとなり得る可能性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。